

発行日：平成 16 年 6 月 30 日
事務局：(太田ジョリサーチ内)
都市災害に備える技術者の会
〒651-1432
兵庫県西宮市すみれ台 3 - 1
TEL:078-907-3120 FAX: 078-907-3123
URL:http://toshisaigai.net/
e-mail: office@toshisaigai.net

技術者の会 “ニュースレター”(issue2)

Professional Engineers Association of UrbanDisaster Preparedness

TOPICS

1 報告事項

- 1. 報告事項..... 1
- 2. 活動報告..... 2
- 3. 活動予定..... 3
- 4. お知らせ..... 4
- 5. ご報告..... 4
- 6. 会員名簿..... 4~

皆様のお力添えにより、平成 15 年 12 月 26 日付で申請をしておりました NPO への登録申請が平成 16 年 4 月 1 日付で承認されました。
ここに報告申し上げます。 理事長 笹山 幸俊

登録内容は下記のとおりです。

- 1. 名称：特定非営利活動法人 都市災害に備える技術者の会
- 2. 代表者氏名：笹山 幸俊



NPOのあ・ゆ・み

NPO に認証されるまでの「あゆみ」をご紹介します。

日 程	出 来 事
平成 7 年 1 月 17 日	阪神・淡路大震災発生
1 月 18 日	社)日本技術士会近畿支部(山田理事)は本部建設部会 1 月例会で現地報告と対策について提案。現地調査団派遣の実施を行った
平成 12 年 1 月 27 日	第 4 回震災対策技術展への参加 「都市防災を考える」
平成 13 年 1 月 18 日	第 5 回震災対策技術展への参加 「技術士の災害対応」
平成 14 年 2 月 14 日	第 6 回震災対策技術展への参加 「都市災害に備える技術者たち」
平成 15 年 1 月 30 日	第 7 回震災対策技術展への参加 「しのびよる都市災害に備えて」
2 月	NPO 法人設立のための準備を本格的に開始
12 月 1 日	発起人会と設立総会を開始
12 月 26 日	NPO 法人への申請
平成 16 年 1 月 29 日	第 8 回震災対策技術展への参加 「都市防災のために技術者や専門家たちは集結した - NPO 都市災害に備える技術者の会 -
4 月 1 日	内閣府より認証の通知書の交付
4 月 14 日	NPO 法人の登記申請を神戸地方法務局西宮出張所に提出(法人設立日となる)
4 月 23 日	笹山理事長他 2 名、内閣府・国土交通省を訪問し、経過説明

2. 活動報告

活動報告は、下記のとおりです。

設立記念シンポジウム

日時：平成 16 年 5 月 15 日(土)
場所：人と防災未来センター
参加人数：40 名
下記に報告します。

理 事 会

日時：平成 16 年 6 月 19 日(土)
場所：神戸国際協力交流センター
参加人数：14 名

役員会・企画委員会

日時：平成 16 年 6 月 19 日(土)
場所：神戸国際協力交流センター
参加人数：14 名

「しのびよる都市災害に備えて」

日時：平成 16 年 5 月 15 日（土）13:00～16:30

場所：人と防災未来センター

5 階プレゼンテーションルーム

基調講演：河田恵昭先生

- ・ NPO 都市災害に備える技術者の会理事
- ・ 京大防災研巨大災害研究センター長
- ・ 人と防災未来センター長

パネルディスカッション

- ： 向井道彦氏（泉南市長）
- ： 内山祐周氏（前神戸市理事）
- ： 渋谷和久氏（内閣府防災担当企画官）

1. はじめに

5 月 15 日に NPO 法人都市災害に備える技術者の会は、NPO 法人設立後初めてのシンポジウムを、神戸市の人と防災未来センター5 階のプレゼンテーションルームで開催しました。設立後約 1 ヶ月という短い準備期間で開催した初回のシンポジウムでしたが、一般来場者 40 名の参加、講師・パネリスト等の方々を合わせると約 50 名と盛況でした。一般来場者の中には、数多くは技術士の方々に、最後まで熱心に聴講されていました。

最初に、この NPO 法人の笹山幸俊理事長（阪神・淡路大震災当時の神戸市長）より、「区域・地域を跨いで実際に活動する人がいないと防災活動は成り立たない。そして、災害時だけではなく平素から災害時のことを十分に考えていなければならない。この NPO 法人には多くの経験を持つ技術士の方々がいるので、この活動にこれからも力を貸していただきたい。」と挨拶されました。



笹山幸俊理事長

続いて、京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・人と防災未来センター長の河田恵昭先生（この NPO

法人の副理事長・兼企画委員会委員長）が基調講演されました。

河田先生は『しのびよる都市巨大災害』というテーマで、2 時間近く熱のこもった迫力のあるご講演をされ、その中で「災害に対して関心を持っている人達でも、すぐに行動するのではなく、じっと情報を待っていてしまう。その間に被災してしまう危険がある。」と情報化時代の弱点について説明され、また「いま地球は思春期に入っている。予想もしないところにニキビができるように災害が起こるようになっている。一方では、都市は糖尿病にかかっている。基礎体力が落ちているため、いままでであれば大丈夫だった程度のことであっても、簡単に被害がでてしまう。」と現代の都市の脆弱性について説明されました。そして「知らぬが仏かもしれないが、やはり災害が起こることを考えて、きちんとした知識を市民が持つことはとても大切である。また、素人だけで会議しても防災や減災に対して効果的な対策は難しく、専門家の力が必要である。」と力説されたところでは、聴講していたほとんどの人の体が固くなり、専門家の防災活動に対する社会的責任の重さを感じているようでした。

後半は、山田俊満副理事長がコーディネーターを務め、立場の異なる行政のお三方によるパネルディスカッションが行われ全員参加のいい雰囲気が進められていきました。

最初に、内閣府の渋谷和久防災担当企画官（本 NPO の企画委員会委員）が「防災は、行政はもちろんのこと、社会の構成員が全員で取り組むべき課題」そして、内閣府の中央防災会議に設置されている「民間と市場の力を活かした防災力向上に関する専門委員会」が広く市民からの防災に関するアイデアを募集しているとのこと、多くの意見を寄せていただきたいと話されました。

陸路だけではなく海を使った救援活動が重要であるという考え方を示され、また自治体の限界についても言及され、自衛隊と自治体との連携の重要性や、災害直後の建造物の安全性の判定については専門家の力が必要であると話されました。

次に、神戸市の立場から内山祐周氏（前神戸市理事危機管理監）が、震災直後の市内の映像、復興計画、そし

て復興の定点観測についてビデオ映像を交えながら具体的に話され、震災の経験から学んだことはコミュニティの大切さであり、震災後防災福祉コミュニティが183団体結成され、神戸市もその活動に対して支援をしており、近い将来に発生が予測されている東南海・南海地震や、今後発生するであろう様々な災害に対して、来年1月に開催される国連防災世界会議などで阪神・淡路大震災を経験した神戸から『してきたコト。これからするコト・・・』を発信していきたいと話されました。



河田先生の基調講演

最後に、泉南市長の向井通彦氏（技術士、本NPOの企画委員会委員）が、阪神・淡路大震災の際に、海からの救援活動に当たった話をされ、漁業組合間で連携をとり行われた救援活動は、非常に効果的で、東南海・南海地震でもNPO法人都市災害に備える技術者の会では、今後定期的に、今回のような勉強会を開催していく予定にしている。このNPO法人は下記に示すように、専門家が防災・減災の活動に関して社会的貢献を行うことを目的としている。この目的に賛同する各分野の技術士や防災に関心のある市民の方々にはぜひともこの活動に参加していただきたい。と締めくくられました。



パネラーの皆様

最後に、今回のシンポジウムの会場を快く提供していただいた、人と防災未来センターの皆様、特に藤森氏には深く感謝をいたします。また、NPO法人設立等に対して多くのご支援をいただいた方々にも紙面をお借りして感謝申し上げます。

【目的】（定款より）

この法人は阪神・淡路大震災の経験をふまえ、土木・建築・都市計画の専門家・実務家・技術士及び幅広く技術に関心を持つ者が、一般市民に対して災害の予防から始まり、災害発生後およびその後の対処法まで含めた一貫性をもった対応への相談および対策の提案をするなどの防災・減災に関する活動を行い、安全な地域づくりを寄与することを目的とする。

情報は、随時ホームページに掲載しておりますので、関心のある方は、是非アクセスしてください。

（太田英将 記）

3. 活動予定

会員・非会員の区別をせず、講演会・勉強会を2ヶ月に1回程度の割合で開催する予定です。講演内容は下記のとおりです。（開催順序、日程は未定。詳細は追ってHP（ホームページ）あるいはニューズレターでご案内いたします）

- ▶▶ 地震
予定の先生：安藤雅孝先生（名古屋大学）
- ▶▶ 地震動
予定の先生：入倉先生（京大防災研究所）
- ▶▶ 津波
予定の先生：河田先生または村越先生
（人と防災未来センター）
- ▶▶ 土砂災害
予定の先生：沖村先生（神戸大学）
- ▶▶ 交通・流通
予定の先生：新田先生（大阪大学）
- ▶▶ マスコミ
予定の先生：未定

4. お知らせ

今後のNPOの活動について
下記2つのワーキンググループの募集
をいたします。

救助・救援、復旧・修復WG
復興・再建、再編・整備WG

詳細は、事務局までお問い合わせくだ
さい。

第9回震災対策技術展について

昨年に引き続き、神戸国際会議場で開催
されています震災対策技術展、第9回への
出展依頼が事務局宛に届いております。第
8回の出展状況については、HP(ホームペ
ージ)をご参照ください。

ビデオ及びDVDの配布について
NPOの認証記念シンポジウム河田先生
のご講演記録ビデオテープ及びDVDを会
員の皆様への配布、および非会員の方への
販売を検討しております。

6. 会員名簿

正会員は、33名、賛助会員は2社となりました。
会の充実を図る為にも会員を増やしていきたいと思
います。皆様、ご紹介いただけますようお願いされ
ました。会員申込書等はHP(ホームページ)をご覧下
さい。

名簿は添付いたします。取扱いにはご注意ください。

5. ご報告

企画副委員長の太田さんのところに毎日新聞神戸支局
より取材要請がきました。NPOに関する事も話されて
います。ご一読ください。

【毎日新聞】

平成16年6月27日(日曜日)の
「ひと・人・交差点」に掲載されました。

知識があれば助かった命

「都市災害に備える技術者の会」理事

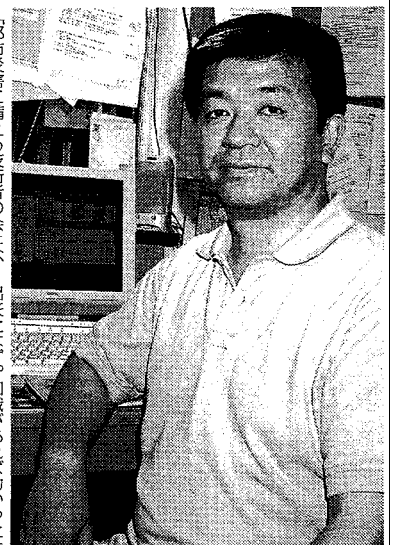
太田 英将さん(44)

＝西宮市

「危険を知っていれば、避けることが
出来たはず。知識があれば助かった命
が少なくない。こんな思いが念じな
がった。地盤や建築について気軽に相
談できる所は少ない。行政に出来ない
個別のニーズに沿った相談支援をでき
ないか。03年、同志15人で設立した。
「難しいことを市民にわかりやすく
伝えることが専門家の役目。そんな使
命感に駆り立てられている。」

震災の惨状を前に 専門家の使命痛感

大学では地質学を専攻。卒業後、建
設コンサルタント会社に入り、トンネ
ルやダム建設の災害対策工場の調査な
どを担当してきた。公共工事などの現
場で働き、「地域に住む市民こそ土
地の特性や防災の知識が必要」と感じ
ていた矢先に阪神大震災が起こった。
尼崎市の自宅は無事だったが、街の
惨状を見て専門家として何が出来るか
考えた。カメラを手に西宮市苦楽園の
落石現場や、同市仁川百合野地区の土
砂崩れで家が埋まった地域などに足を
運び、被害状況を記録。谷を埋め立て
た地域で家屋の被害が多いことが分か
った。



編集後記

技術者の会もNPOに成長し、充実した活動のお手伝い
ができれば...と思います。
読みやすい会報誌づくりを努めていきたいと存じます。皆様
からもどしどし情報をお寄せください。

(株)建設技術研究所大阪支社(野阪正美)が事務局のお手
伝いをするようになりました。宜しく願いいたします。

メモ 会は04年にNPO法
人を取得。笹山幸俊・
前神戸市長が理事長を務める。
会員は約40人。問い合わせなど
は同会事務局(078・907・3120)。
ホームページは<http://toshisaigai.net>

【細川貴代】